

平成 28 年度 長崎市自然環境調査報告書：水生生物

長崎市自然環境調査委員 深川 元太郎

《平成 28 年 4 月～平成 29 年 1 月》

○神ノ島三丁目 小河川：4 月 2 日

神ノ島の埋立地にある小河川（水路）で調査を実施しました。本水路は、三面コンクリートですが、河床には砂～泥が若干堆積し、その上に石が点在する状況となっています。調査地の大部分が感潮域で、調査上端部で淡水域となります。水は少量で、ほとんどの場所が干潮時には 10cm 以下の水深となります。確認種は、貝類 24 種、甲殻類 10 種、魚類 5 種でした。一例としてカノコガイ、ウミニナ、ハマガニ、ニホンウナギ、ニホンヒキガエルといった種が見つかっています。ハマガニは、市内では少なく、今回の発見は貴重です。調査上端部付近では巣孔も狭い範囲ながら、多く確認できました。生体は 4 個体確認でした。

○香焼町辰ノ口 主に砂浜海岸：4 月 2 日

打上貝を中心に調査を実施しています。確認した貝は、岩礁・転石域にみられるものを中心に 83 種でした。一例として、コベルトカニモリ、カニモリガイ及びクチバガイなどです。

○大籠町 主に砂浜海岸：4 月 2 日

打上貝を中心に調査を実施しています。確認した貝は、岩礁・転石域にみられるものを中心に 105 種で、前回調査時(2013. 10. 19)と同様に多くの種類が確認されました。一例として、キサゴ、コベルトカニモリ、カニモリガイ、カヤノミカニモリ、パイ及びフジナミ(古死)などで、カニモリガイとパイについては多くの死殻を確認することができました。比較的深い場所に生息するリュウグウボタルなどの種も確認できたことから、この場所にこれらの種が打ち上げられやすい要因があるものと思われます。



神ノ島三丁目の水路



神ノ島三丁目の確認種 カノコガイ



神ノ島三丁目の確認種 ハマガニ



香焼町辰ノ口 海岸



香焼町辰ノ口の確認種 ゴマフナ



香焼町辰ノ口の確認種 サワラビ



大籠町 海岸



大籠町 海岸

○西海町 西海川河口右岸：5月8、21日

河口右岸部の干潟域及びヨシ原域の調査(8日)、汽水域上限付近の調査(21日)を実施しました。確認種は貝類27種、十脚甲殻類10種、魚類11種、昆虫類等12種の計60種でした。一例として、ヒロクチカノコ(近似種)、コゲツノブエ、タケノコカワニナ、ウミニナ、イボウミニナ、フトヘナタリ、ヘナタリ、カワアイ、ムシロガイ、ナラビオカミミガイ、ハザクラ、イチヨウシラトリ、ウネナシトマヤガイ、シオヤガイ、イオウハマグリ、オキシジミ、ユビアカベンケイガニ、クシテガニ、ビリンゴ、チクゼンハゼ、クボハゼ、ヒモハゼ、マサゴハゼのなどです。イチヨウシラトリとクボハゼは、多以良川河口に次ぐ市内2例目となり、大村湾側にも生息することが確認できました。

○蚊焼町 野島：5月28日

昨年砂浜部を中心に打上貝の調査を実施しましたが、今回は、田中委員(昆虫)と共同で海浜性昆虫を中心に調査を行い、補足的に海浜部の打上貝の調査も実施しました。海浜性の昆虫については田中委員の報告を参照下さい。打上貝は、前述のような調査であったため、調査範囲が限定的でしたが、貝類のみでは100種と前回とほぼ同数の種数でした。確認種は、砂浜部の打上にも係らず、岩礁・転石帯に付着、匍匐するものが大部分を占めています。これは、砂浜部が潮間帯に限定され、潮下帯に岩礁や転石帯が広く形成されていることに起因するものと思われます。この結果は前回の種組成と同様の結果でした。別途の調査で対岸にある鯨浜の調査を実施していますが、この場所の打上貝は、種数、個体数ともに野島に比べると非常に少ない状況です。人が定期的に清掃していることも考えられますが、その原因については検討すべき課題です。



野島全景



野島 調査地点



アイゴ(死体)

○ハッチョウトンボ生息調査：6月5日

過去に記録のある場所を中心に調査を実施しました。長浦町の湿地は、県民の森近くにある小規模な湿地で植林の中にあります。モウセンゴケやオオミズゴケ類が一部で繁茂し、過去に確認した情報もありましたが、今回確認できませんでした。琴海形上町のドブ池も奥部に小規模な湿地があり、過去に少数確認されていましたが今回確認できず。同じく、市境近くにある琴海形上町の小規模な湿地も、湿地上に植林の倒木が覆っているなどしており、確認できませんでした。また、樫ノ久保湿地として過去に記録があった場所も

今回調査しましたが、見つけることができませんでした。調査日は霧雨と天候も良くなかったため、再度確認する必要がありますが、長崎市の本種の生息状況はかなり厳しい状況であると思われます。

○琴海尾戸町（浦底）の入江：6月5日

過去にゴマハゼを確認できた場所ですが、今回は、サツキハゼ、ドロメ、アカオビシマハゼなどのハゼ類やアミメハギ、クサフグ、クロダイといった遊泳性魚類を確認したのみで、ゴマハゼは確認できませんでした。生息環境はほとんど変化していないと思われ、今後の調査で確認される可能性は大きいものと思われます。水面にはシオアメンボと思われる個体を10個体以上目撃しましたが、県の条例による捕獲許可をもらっていないため、種査定ができていない状況です。本種は、Hayashi (1997)によってKinkai (旧琴海町)で記録されており、本種である場合、それに次ぐ記録と思われます。

○西海町西海川河口：6月19日

本地点で市内初記録となるヤマトヒメメダカカッコウムシをヨシ原で確認しました。本種は、ヨシ原に依存して生活しており、市内ではヨシ原がほとんどない事を考慮すれば、絶滅に瀕した状態と思われます。そのほか、クボハゼなどハゼ類を中心に約30種を確認することができました。



調査地点(長浦町湿地)



調査地点(形上岳どぶ池)



調査地点(琴海形上町湿地)



調査地点(椋ノ久保湿地)



調査地点(西海川河口)



ニホンウナギ



クボハゼ



ヒメカノコ(死骸)



ヤマトヒメメダカカッコウムシ

○ウミアメンボ類生息調査：7月2、3日

先月(6/5)琴海尾戸町の小規模な漁港でシオアメンボと思われる個体を目視したことをきっかけに、琴海地域にウミアメンボ類がどのように分布しているか調査を行いました。調査は、本類が生息していそうな入江奥部(漁港など)を中心に18地点で実施し、目撃し



調査地点(Stn.3)琴海尾戸町



調査地点(Stn.4)琴海尾戸町



調査地点(Stn.5)琴海尾戸町(浦底)



調査地点(Stn.6)琴海尾戸町



調査地点(Stn.7)琴海尾戸町(松尾)



調査地点(Stn.8)琴海尾戸町(塩垂)



調査地点(Stn.9)琴海尾戸町(鵜瀬島)



調査地点(Stn.10)琴海尾戸町



調査地点(Stn.11)琴海尾戸町(名串)



調査地点(Stn.13)琴海形上町(大子)



調査地点(Stn.16)琴海戸根原町



シオアメンボ

た場合は、成虫のみを捕獲後持ち帰り、顕微鏡下で種査定を行いました。なお、長崎県未来につながる環境を守り育てる条例でシオアメンボが捕獲禁止となっているため、予め、長崎市環境政策課から自然環境調査委員の該当委員の捕獲許可をもらって調査を行いました。結果は、シロウミアメンボが3地点、シオアメンボが9地点、ケシウミアメンボが4地点でした。前2種は、環境省 RL の VU、長崎県 RL の EN に該当します。長崎市大村湾沿岸では、シロウミアメンボが大村湾内でも潮通しがよい場所に生息する印象を受けました。また、シオアメンボは、県内では比較的希とされていますが、長崎市においては、数は多くないとはいえ、広く分布していることが確認されました。ケシウミアメンボは、カタビロアメンボ科に属し、微小な種であるため、今後各所で確認される可能性が高いと思われます。

○ウミアメンボ類生息調査：8月7日（7月9、24、25日含む）

先月（7月報告分）大村湾沿岸域のウミアメンボ類の調査を実施しましたが、それ以降の7月9、24、25日及び8月7日にかけて角力灘沿岸域25地点でウミアメンボ類の調査を行いました。調査場所は、主に入江奥部の港内を見てまわり、確認できた際には採取を行っています。結果は、既産地である弁天白浜左岸側にある自然トンネル先の岩場でウミアメンボ5個体を確認できたのみでした。本場所は、自然海岸（岩礁）で、潮通しがよいため、水面に膜等がない清澄な状態で、他の見て回った港内とは異なっていました。今回調査を行った港内は、ウミアメンボの生息環境とは異なっている印象を受けています。長崎市内では比較的波が穏やかな入江奥部が概ね人工的な構造物であるため、本種の生息は局所的となっている可能性も考えられます。今後、人工的な構造物が比較的少ない環境を中心に新たな生息場所の確認を行っていく予定です。また、今回ウミアメンボの確認は、1988年以来約28年ぶりの2回目となります。なお、角力灘では大村湾沿岸で確認されたシオアメンボ、シロウミアメンボ及びケシウミアメンボを確認するに至っていません。



長崎市柿泊町の海岸①



長崎市柿泊町の海岸①



ウミアメンボ

○東町 八郎川下流部：9月10日

感潮域上限にある堰の湛水域にある浅場から上流側の調査を実施しました。魚類9種、十脚甲殻類2種、貝類8種、その他21種の計40種を確認しました。一例として、ミズゴ

マツボ、モノアラガイ、クルマヒラマキガイ、コフキヒメイトトンボ成虫、コシボソヤンマ幼虫、ナマズ、ミナミメダカ、アユなどです。ミズゴマツボとコフキヒメイトトンボは新産地であり、市内でも生息地が限られている種です。なお、後者は、近隣の長崎ペンギン水族館でも以前記録されています。一方、アメリカザリガニなどの外来種が確認されており、在来生態系への影響が懸念されます。

○琴海戸根町 戸根川感潮域：9月11日

感潮域から下流部の堰まで調査を実施しました。魚類9種、十脚甲殻類5種、貝類2種、その他12種の計28種を確認できました。一例として、コオニヤンマ幼虫、シマアメンボ、アユ、ウキゴリなどで、これまでの調査によっても本4種は記録されています。



○神浦丸尾町 神浦川感潮域：10月1日

感潮域上限付近でタモ網を用いて調査を実施しました。魚類6種、十脚甲殻類13種、貝類2種、その他3種の計24種を確認できました。一例として、カノコガイ、ヒメヌマエビ、ミナミテナガエビ、ハクセンシオマネキ、カワスナガニ及びカワアナゴなどです。

地点内の確認場所は、ハクセンシオマネキが下流側左岸側の船溜まり、カワスナガニが淵の砂礫底で、カワアナゴが感潮域上限の緩流部の石の下で2個体確認されました。カワスナガニは、神浦川では初記録で、4個体確認されたことから、偶産種ではないと思われます。

○三重田町 檜山川下流部：10月1日

杉谷川との合流点の下流側でタモ網を用いた調査を実施しました。魚類3種、十脚甲殻類3種、貝類3種、その他6種の計15種を確認しました。一例として、トゲナシヌマエビ、ミナミテナガエビ、ヒラテテナガエビ、コシボソヤンマ幼虫、クロスジギンヤンマ幼虫、シマアメンボ、ミナミメダカなどです。これらは長崎市内では各所で比較的普通に見られるものがほとんどです。



・鳴滝三丁目 鳴滝川及びうど川：11月3日

鳴滝川源流部一帯で調査を実施しました。本河川は長崎大水害以降、護岸・川床工事が進み、ほとんどが三面コンクリート護岸となっており、水生生物がほとんどみられない状態となっています。この川の下流部には、過去にシーボルトの宅地があり、淡水魚の一部はこの川で採集された可能性があります。この水系の源流部では三面コンクリートとなっていない場所があり、魚類が生息している可能性がありましたが、サワガニとカワニナのみで魚類を確認できませんでした。

・多以良町 多以良川感潮域：11月3日

既知のウミニナ、クロコハゼ、ヘナタリ、クチバガイ、ハクセンシオマネキ、マサゴハゼ、シイノミミミガイ、フトヘナタリ、ドロアワモチなどを確認できましたが、潮が

あまり引かない日であったため、確認種は少ない状況でした。

・神浦口福町 相川源流部：11月6日

水量は少ないものの、魚類が生息できないような状況ではなかったため、採集を試みましたが確認できませんでした。オニヤンマ、アサヒナカワトンボの各幼虫やタゴガエル、アカハライモリ、サワガニなどが確認できました。



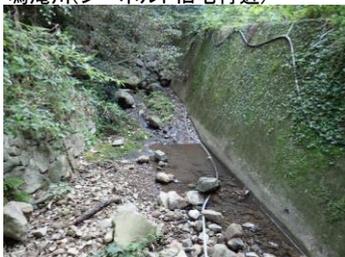
鳴滝川(シーボルト旧宅付近)



鳴滝川源流部



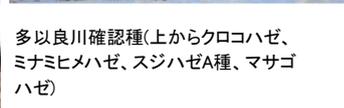
鳴滝川源流部



鳴滝川支流おど川源流



多以良川感潮域



多以良川確認種(上からクロコハゼ、ミナミヒメハゼ、スジハゼA種、マサゴハゼ)



相川源流部



相川 オニヤンマ幼虫



花ノ木ダム上流 クロヨシノボリ



花ノ木ダム上流



花ノ木ダム上流 ヤマトヌマエビ

・神浦江川町 神浦川支流花ノ木ダム上流部：11月6日

前述の相川源流部の近い位置に本地点があり、同様に調査を行いました。クロヨシノボリ、ミズスマシ、ヤマトヌマエビなどを確認することができました。ミズスマシは以前、平地でも普通に見られましたが、最近では限られた山中にしか見ることができなく

なっています。

・琴海戸根町 戸根川支流：11月12日

戸根川感潮域左岸にある支流部で調査を実施しました。確認種は、魚類10種、十脚甲殻類2種、貝類6種の計18種でした。支流の感潮域ではニホンウナギを3個体確認しています。感潮域上限に小規模な落差工があり、それより上流部は三面コンクリートとなっていますが、一部の支流途中にある集水枡では土砂等が堆積し、ミナミメダカなど動物が比較的多く確認する事ができています。以前の調査ではミズゴマツボとドジョウを確認していましたが、今回は確認できていません。

・琴海戸根原町 戸根原川河口：11月13日

確認種は、魚類でチクゼンハゼ、ヒモハゼ、貝類(死殻)でイオウハマグリ、シオヤガイなど市内では希少な種を多く確認する事ができています。



戸根川支流(ニホンウナギ)



戸根川支流淡水部(ウキゴリほか)



戸根川支流(ヨシノボリ属、ミナミテナガエビ、ミナミメダカ)



戸根原川河口(ハマグリ、ムラサキガイなど)



戸根原川河口(ヒモハゼ、チクゼンハゼ、マテガイ死殻上のヒメカノコ)



戸根原川河口

・西出津町 海浜：11月23日

これまで未調査の砂浜がある西出津町で調査を実施しました。打上貝類が多く112種の死殻を確認することができました。また、打ち上げられた流木下から多数のハマベオオヒメサビキコリ(市RDL：CR)を確認でき、現在でも長崎市内に生息していることが明らかと

なっています。本種は、海浜性で後翅が退化しているため、飛ぶことができず、移動能力は低いものと思われます。



西出津町の海浜



西出津町の海浜



ハマベオオヒメサビキコリ(流木下)



ハマベオオヒメサビキコリ



モモフトトビイロサシガメ(流木下)

・宮崎町 宮崎川宮崎ダム下流、三和記念公園：12月11日

確認種は、これまでの既知種のみでしたが、河床にはシジミ属が多産していました。さらなる検討が必要ですが、外来シジミと考えられます。また、三和記念公園内の池では、カダヤシが多数確認されています。



宮崎川 宮崎ダム下流部



通称「ふんどし流し採集」



アカモンミゾドロムシ(ふんどし流し採集)



シジミ属の一種(多産)



ミナミテナガエビ(上)ヒラテテナガエビ(下)



クロヨシノボリ(上)スミウキゴリ(下)

・下大野町 海岸：12月25日

大野浜海浜公園の南側一帯の海岸で調査を実施しました。打上貝を中心とした貝類が65種、十脚甲殻類が5種、魚類が3種、その他が2種の計75種でした。RDB等掲載種はカヤノミカニモリ(死殻)、カニモリガイ(死殻)、バイ(死殻)、ナガミズハゼ近似種1の4種です。ナガミズハゼ近似種1は、未記載種で現在分類学的検討が進められていますが、長崎市内からは初記録となります。県内では、雲仙市、五島市、川棚町などで確認されている種です。海岸に地下水が浸み出している場所や綺麗な小河川河口部の砂礫上に半分ほど埋まった石の下などで見つかっています。



下大野町の海岸(小河川河口)



ミズハゼ



ナガミズハゼ近似種1(幼魚)

・相川川上中流部：1月14日

相川川の馬乗川平ビオトープ横から上流部の旧取水堰までの調査を実施しました。魚類3種、十脚甲殻類7種、貝類1種、その他12種の23種を確認しました。これまで確認していた種であり、種数も少ない状況でした。



相川川



カワムツとクロヨシノボリ



ヤマトヌマエビとミズレヌマエビ